

特定非営利活動法人

特別賞

地域サポートわかさ

誰もが住みよい地域にするためには、地域みんなの力が必要！



公民館＝自治公民館（生活全般に関する活動を行う、住民主体の組織）のイメージを持つ方もいるかもしれないが、若狭公民館は、行政が設置している公立公民館（条例公民館）であり、社会教育・生涯学習施設としての機能を果たすものとなっている。那覇市には7つの公立公民館があるが、そのうちの2館が指定管理者を導入しており、若狭公民館は【NPO法人地域サポートわかさ】が管理運営を行なっている。

若狭公民館（宮城館長）の管轄は広く、小学校6校に中学校2校、約54,000人（30,000世帯）が対象となっている。生活保護率が高く、歓楽街を有するため夜間に働く女性も多い。また、外国人労働者や留学生も急増しているエリアとなっている。

地域課題は多様化・複雑化し、解決には時間がかかる。何かと忙しい中で、住民に時間を割いて活動に参加してもらうことも難しい状況であるため、公民館としては「地域課題×活動の魅力」ということを意識し、地域課題に向き合いつつも、活動そのものを楽しく魅力あるものにできるよう取り組んでいる。

また、公民館の中にいると、利用者や自治会役員からの情報は得ることができるが、それ以外の方々が抱えている困りごとに気づかない場合もあるという。様々な属性の方がいることをまずはしっかり認識すること。その上で、何に困っているのか想像を働かせ、その方々と繋がっていきそうな機関や団体と連携し、支援が行き届くよう努めている。

他機関や団体との連携で、直接の繋がりがなくとも支援が可能に

若狭公民館の活動は多岐にわたり、ここで全てを伝えることは難しい。そのため、前述にある「活動の魅力」「他機関や団体との連携」がより際立った活動に焦点をあてて紹介したい。

「しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄」とは、公民館の講座に協力してもらったのがきっかけで10年以上前から連携している。寡婦控除（夫と死別・離別した方の税金

が控除される仕組みで、未婚だと控除の対象外だった。）の見直しを求めて勉強会を開催したり、コロナ禍の食糧支援では「提供する場所がない。」との相談をうけて、休館中であつた公民館を開放し、密にならないようドライブスルー方式で渡すことができるようにした。また、この支援のニュースを見た方から「食べ物にも困っているし、学校再開にあたり子どものランドセルが準備できて

カテゴリー	子どもの健全育成／人材育成		
住所	那覇市若狭2-12-1	電話番号	098-917-3446
人数	7名		
設立	2007年法人設立、2015年～若狭公民館の指定管理者		
主な活動	那覇市若狭公民館指定管理事業		
利用施策	沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業（平成29年度～31年度）、 移動式屋台型公民館を活用した「つどう・まなぶ・むすぶ」創造拠点創出事業		
受賞歴	文部科学省第70回優良公民館表彰最優秀館（2017年度）、 第4回全国公民館インターネット活用コンクール金賞（2021年度）		

いない。」との相談をもらった。休校中であつたため、先生方も状況を把握しにくい中、たまたまこの会のことを知ってもらえたため繋がったのだ。その後、知り合いづてでほぼ新品のランドセルも用意できたり、学校から行政の支援員を手配してもらうこともできた。直接、当事者

と公民館の接点があつたわけではないが、「しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄」や学校、那覇市等と繋がっているからこそ、支援に必要な団体同士を橋渡しすることができた好事例ではないだろうか。

楽しいから人が集まる！地域の公園に出現したパーラー公民館

数年前の夏、「曙地域にも公民館がほしい。」との声が届く。この地域には公民館がなく、最も近い若狭公民館へも徒歩1時間と離れており、市の財政状況を考えても、新たな公民館建設の道のりは遠いと感じられた。

そこで登場したのが、公園にパラソルと黒板テーブルを設置しただけの通称「パーラー公民館」。月に1回程度のワークショップやイベントを開催したものの、基本的には自由な場。高齢者が語らい、子どもたちがお絵描きやボール遊びをするなど、思い思いに楽しむようになった。実は、派遣した公民館スタッフには、「何もしないよう

に。」と伝えられていた。世話焼きの性質であるスタッフには当初戸惑いがあったようだが、唯一できることだった地域の方々の話に耳を傾けることを愚直に行い、「そこで掘り起こされたニーズを後押しできればいいのでは」との気づきも得られたようだ。

やがて、地域住民が主体となって活動する「入りやすく抜けやすい」緩やかな場が生まれた。施設の有無ではなく、人の輪が自然と広がっていくこと。そういう公民館本来の役割に改めて気づかされた取組みでもあった。

何事も一人でやりすぎないこと。人材育成と地域づくりの共通点

最後に人材育成の秘訣について伺うと、若狭公民館館長いわく「色々やりたいことがあるけど、一人で全部はできない。でも、手がまわらなくなると、見かねて誰かがやってくれる（笑）。館長の自分が全部はできないからこそ、皆が主体者となり手助けしてくれて、育っていくのでは。」地域づくりについても、「公民館が牽引するのではなく、あくまでも後押し。地域の方の自治を育むことが重要。」との考えをお持ちである。人も地域も、大きく育つために必要な条件は同じなのかもしれない。

